

1

新聖歌67 わが心は (コードA♭)

1

わが心は あまつ神を とうとみ、
わがたましい すくいぬしを
ほめまつりて よろこぶ。

2

数に足らぬ
はしためをも 見すてず、
よろず代(よ)まで さきわいつつ、
めぐみたもう うれしさ。

3

御名(みな)は清く
大御業(おおみわざ)は かしこし、
代々(よよ)にたえぬ みいつくしみ、
あおぐものぞ うくべき。アーメン

【主イエスをほめよ】

主イエスをほめよ 主イエスをほめよ
主イエスをほめよ そのみわざを
われを罪より 救いあがない
主イエスをほめよ そのみわざを

【主は御座におられる】

1.

主はみ座におられる 聖なるお方
イエスの愛をうけて 賛美をささげよう
主の 臨在の中で 大いなる勝利を
ほふられた小羊に ころから叫ぼう

主にハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ×2

2.

主の聖なる宮に 今われらは行こう
聖徒らと共に主のみ前で あがめよう

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り

- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ・瀬戸カルバリーチャペルの成長のため
- 教会員とご家族の養いと導きと守りのため。
- 魂の救いと地域の伝道のため
- インターネット YouTube が用いられるように。
- 病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため
- ライフアートスタジオのこれからのため
ウクレレ教室/キッズ英語教室/モンテッソーリ教室
クリスマス・アルバム「Room For Christ」のため

5. 日本と世界の平和を願って...

- 日本の国の霊的回復とリバイバルのため
- アジアの緊張関係にあつて日本が用いられるように
- アメリカ大統領とこれからの世界情勢のため
- イスラエルの平和のため

【馬槽(まぶね)のかたえに】 作曲:ヨハン・セバスティアン・バッハ

- 1 馬槽の傍に我は立ちて 受けたる賜物捧げまつる
命の主イエスよ 我が身も心も取りて祝したまえ
- 4 煌めく明か星 馬屋に照り 侘びしき乾草 馬槽に散る
黄金の揺りかご 錦の産着ぞ 君にふさわしきを
- 6 愛する主イエスよ今捧ぐる 一つの願いを聞きたまえや
この身と心を主の馬槽となし 永久に宿りたまえ

瀬戸カルバリーチャペル

Seto LIFE ART Studio

愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899

牧師: 倉知契 kei.kurachi@gmail.com



祈りの小径(こみち)

Number:038

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ルカによる福音書1章 24～25節

1:24 そののち、妻エリサベツはみごもり、五か月のあいだ引きこもっていたが、

1:25 「主は、今わたしを心にかけてくださって、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました」と言った。

ルカによる福音書1章39～48節

39 そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、40 ザカリヤの家にはいってエリサベツにあいさつした。41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。**エリサベツは聖霊に満たされ**、42 声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。43 主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんとという光栄でしょう。44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。45 **主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう。**

46 するとマリヤは言った、「わたしの魂は主をあがめ、47 わたしの霊は救主なる神をたたえます。48 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、…

テモテの第二の手紙2章13節

たとい、わたしたちは不真実であっても、彼は常に真実である。彼は自分を偽ることが、できないのである。

3

黙想とところの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

質問

1. 「神は誓われる」という名前のエリサベツに、神様はどんな誓いを果たして下さったでしょう。

- (1)
- (2)
- (3)

2. エリサベツは5ヶ月間、どんな「ひきこもり生活」をしていたでしょう？想像してみてください。

4

みことばの解説

アドベント(待降節)を過ごしています。アドベントとは「到来」「来臨」の意味です。待ちに待った約束の救い主イエス様のことを思い巡らせる大切なシーズンを一緒に過ごしたいと願います。

前回の「祈りの小径」でとりあげた、ザカリヤという祭司。その名前は、「ザカリ=覚えている」と「ヤ=ヤーウエなる神様」というふたつの意味が合わさって、「神様は覚えておられる」「私たちをは忘れていない」ということでした。その妻エリサベツが今日を中心ですが、彼女の名前は、「エリ=神様」「サベツ=誓い」という意味で、『**神は誓われる**』あるいは『**誓いの神**』です。つまり、ふたり合わせると、『**神様は誓われたことを覚えておられる**』という意味なのです。私たちの祈りを聞いて、覚えていて、答えてくださるだけでなく、神様ご自身が「誓い」、それを成就して下さる。マタイ福音書を見ると「～と書かれていることが成就するためである」と何度も出てきますが、「神様の御性質」をもっとよく表しているのが「誓いの神」(エリサベツ)なのです。

優しく言えば「約束(promise)」もつとと言えば「契約(testament)」です。旧新約聖書を「testament(テストメント)」と言いますから、聖書そのものが神様の誓いです。創世記のはじめから黙示録の最後まで、神様はそれを果たされる。そしてその最後は『アーメン、主イエスよ、来たりませ』(黙示録22章20節)で終わります。アーメンとは「同意します」「真実です」ということですから、聖書のすべての誓いに「アーメン」と告白し、イエス様の到来(アドベント)を待ち望むのがクリスチャンの姿なのです。2テモテ2章13節にあるように、神様ご自身が「真実」な方であり、「アアメンたる者」(黙示録3章14節)です。

エリサベツは、神が祈りに答えてくださり子どもをくださったという以上に、神は真実であることを体験し、私たちに証しています。どんな現実、痛みや悲しみがあっても主は真実に誓いを果たし、私たちに救い、癒し、解放して下さることを信じ続けたいと思います。